京
50
357
別園
56
(19)
21

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

帝國圖書館藏

6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

○經政
敷畫
半面敷畫
忠左
修理忠左

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

経政

装束之賞

ワキ　シテ

角帽子（沙門ニモ）　ムワラ　水衣　大口
珠数
面中将（今若ニモ）　黒面　梨子打　白鞨巻
単法被（但長絹ニモ）　手切　腰帯　大刀　扇
着付唐織

手離子

●ツヤ面ニテハカヽル打切ニテ文
●ヲモ取リヤ帝彩際ニ陸奥ノ西手上ケタヘ持
●たゝゝゝハ左ニテ扇子出シツマミ●ツヤ切ちらし
て直ニ其扇子スボメ右ヘ持テ前ヘ出シ又後ロヘ出シ
●勝意ハ猛ハ正面サキヘ左ヲ先キニノ出上ヲ見
ナガラ下リ扇子ニテ左右トハラフ●笑ヒヲヲフマキ型
ヘ行●返シ物ヽ〳〵ヒヤヤヲフマキ型ヨリサシテ大小ノ前
ヘ行ゝゝ面ヲ前ヲ小廻シテ返シたゝゝゆいのけ
ヒラキトノ　翔リアリ
其余能附同様ナリ

謡ハ舞台ヘシテ柱ノキワニテ正ニ向風林ヲ詠ノ

舞附

仮者ハ面ヲ髪ヲ切ニ幕上

風花ハ雪月花ハ時ハ天ハ面

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

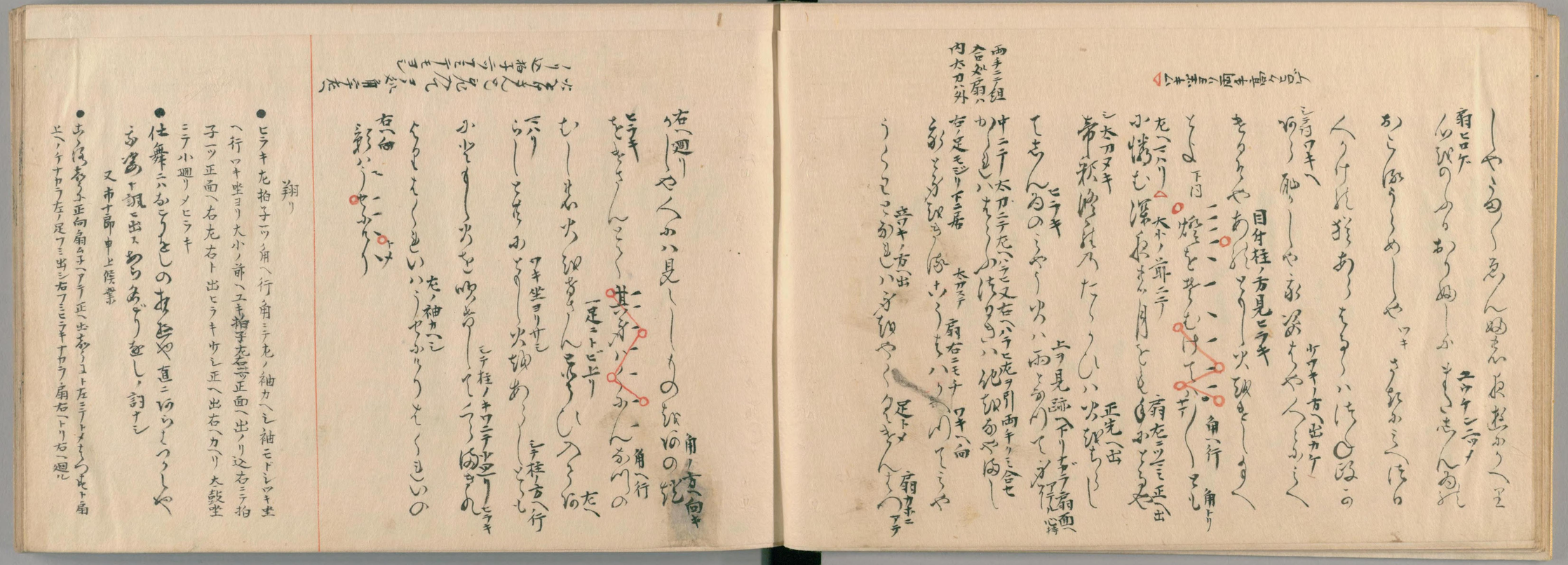
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



翔り

●ヒラキ左拍子二ツ角へ行角ニテ左ノ袖カヘシ袖モドシワキ坐へ行ワキ坐ヨリ大小ノ前ヘユキ拍子左右二ツ正面ヘ出ノリ込右ニテ拍子一ツ正面ヘ右左右ト出ヒラキサシ正ヘ出右ヘカリ大鼓坐ニテ小廻リメヒラキ

●仕舞ニハ右ヒラキ左ノ袖カヘシ直ニ切ラシツラシヤ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

ヒラキ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

四

經政

是ハ仁和寺門室之位ヘ申上候
言乃條部行慶ゟくだらくも
平家ハ一門組る寺經政ハ未
童形乃時ゟ琵琶を釣
ありとゝ申ゟ今度西海乃合
戦ゟ琵琶ハ經政ゟ生乃時ゟ
部下さわくゝ彼乃琵琶を給
ゟ上ヘ直ぐ給講ゟく吊ひ
せとの中ゟく行ゟ役義式
集め仕候　實や一樹乃法ゟ宿り
一河乃流ゟ知ゟむ事ゟ皆ゟ

他生縁とかまてもあ寿
乃ん値遇ものをあくかけまくも
かしこき所くも宮中あく法事
とあるとすらあ寿乃経函
成寿ん覧と常ひ法ん音訳さよ
高こんにたまく仮者ん云ひとをく
で者乃為ん手向ん仏事とあるとも
あ寿乃色ん仏事とあるとも
問ん所ん乃法の門ん様の乃も
あまねしやくく風柏木と
ん所ん晴天乃雨月乃雲ん題を
夏乃夜ん乃月乃ん紀ものやと
からく仮よんとう草乃ん露

ん乃ん乃ん乃

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

ぶ[正ヒラキ]ぶ[正ヒラキ]あり[正ヒラキ]ける[正ヒラキ]ぬ[正ヒラキ]の[正ヒラキ]中[正ヒラキ]よ[正ヒラキ]なく[正ヒラキ]
[正ヒラキ]ぶ[正ヒラキ]ぶ[正ヒラキ]と[正ヒラキ]秋[正ヒラキ]の[正ヒラキ]れ[正ヒラキ]や

種火とも成ハ光とやく善惡和
やべよ月しも地獄のと
をしひとけんとく其外ハ惡
人夏乃虫乃類をけんと花
入くゝ花と云よ竹紙あらしと
花よりしひを吹きてゝ
あるひより能果を失よりも能
善乃力をもつて也よりわ

ひ手引
是ハ仁和寺内室之仕へ中ゝ大納
言乃信都行慶ゝ
平家一門位る守經政ハ未
童部乃時より武術を鍛
ゝ今度西海乃合
戰ゝ
ゝ青山を
中ゝ琵琶ハ經政母生乃時より
ゝ琵琶を伝
ゝ貴賤諸ゝ
ゝ
ゝ

他生の縁なりかとまてやあ寿
乃は値遇あるをあくかけまくも
かしこき所くも宮中あくに法華
とあるくあるとすらあるを経
成菩提覚と常ひ法の方弘さよ
向とたまき彼青山と云ひしとをく
亡者乃為よ手向はくおはしを
弟子乃為と仏事をあるを
用ゐ乃法の門き錦の乃も
あまねしやくく　阿弥陀仏
けし時天乃雨月乃雲ゆ遮を
夏乃夜れ乃月お紀おもやと
かりく假よりて草乃法の露

乃月おりうえ彼乃面影
縁とぞ思ふ　ワキカル　きや
はしらや深夏よりまくに
とりて火かくるゆ出り
らしかり人数のあるかあるよ
見て給ふ給ふ乃人をまし　ミテ給
ミテ給　我経成の幽玄乃
常ひ乃方弘さよ　ワキカル　あらうれ乃
乃幽玄と答ふかとをんを
とれまくくとかをを
なくて　ミテ　声をかとふ
行くく　ワキ　まくくとを

かをり　秋の哀とゝはれし　まさ
ゝしもせく　春の　秋きかふ
蜻蛉の　まほろし　世常なさ
身をて　経政の　くゝとの浮世
おかりこゝろ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
長めて　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
業社を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
水かま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
の中　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

敷盛

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

敦盛

初ノシテ花ツレ童子面黒髪水衣ニテモヨシ是た近此通ニテ致候由當時モ此通ニテ致シ候テモ宜シキ由

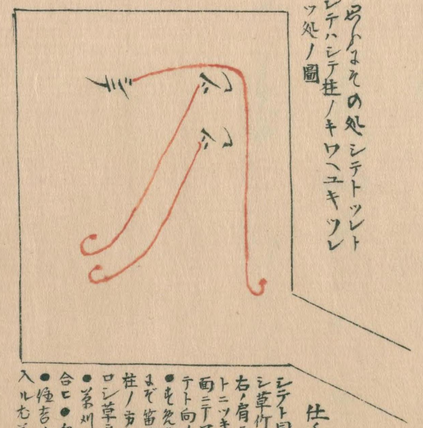
装束之覚

初シテ　ハナシ髪　着付段熨斗目　水衣　白袴　腰帯　扇

ツレ　ハナシ髪　着付無地熨斗目　水衣　白袴　腰帯　扇

後シテ　面　童子　着付厚板　草法被　長箒ニテモ　袴　腰帯　扇

白鉾巻　梨子打　黒垂　太刀



仕手連

半離子　能身ノ通ニテチカイメヰコニ記ス

極めびとゐ号ふまその処シテトツレ入リカワリシテハシテ柱ノキワヘユキツレハ笛ノ上ヘ立ツ処ノ圖

シテ正先ヘ行スコサズ直ニ向合ヲ一寸足フミワロヘ向合

シテト同断ニ肩腰ニサシ草竹ニハサミタル作物右ノ肩ニカタゲシテノアトニマキ次ノ者ニテ出正面ニテ足トメたり向シテト向イ合次ノ謡フ

●もゝ色そとしたくり　ゆふまで笛坐ノ上ヘ行目付柱ノ方向キヲルむ草ヲロシ草ヲみチヘムケテヲル

●名州の笛シテト向イ合ヒ●あちんワキヘムク

●極ちのみぎとちゝハ入ルむ草カタゲ入

●波まあむるゝ正先キニテ肩左ヘトリ顔ニアテ下ニヲル●ゆふのとまや角ヘ行●ととゆゝして左ヒリ●一八の大小ノ前ニテ左右半離子ニテモ如もきあら死の文句ホミナ謡フ●ちゝ左ヒ手綱持様ニメたり左ヒリ右ノ肩左ヘツゝミヒトヘ身ニテリワキヘ出シ

●波の切物肩右ヘ持カヘ太カヌキタル様ニメ抜くトワキヘ出アケル足ヅカイ腰ノ入様能附ノ通●討んとをちま肩フリ上ル●紙ハ

ハとゝまサシ右ヒリ大小ノ前ニテ小ヒリヒラキトメ

シヤガアヤメナドノ系竹ハサミ右肩ニカタゲ肩腰ニサシ正先ヒ出足トメ右ヘカエリツレト向合謡フ

舞附

シテ次第

ふねのこゝろをくゝ第りゆくゆ多

をくて次ハてを風ふかれ地謡かめ（サシ）ハ正

第りゆくおのこゝををくかへちゆふ

ゆ海をれ永海をさをを海きうみす

こしゝ浦のかゝしひ海をふよいり浦ゆ

ゆちうゆをのこをこをて扇うけれ

ト歌こわゞこをひをうわふとをこゝ海

上歌をを海の浦ゆ海ゆゆ海ゆゆ海ゆゆ

我よそ度のあるへしよあるまうふ形れハ泥
人共おすれしふそうやくしてもあて
とそうり見ようそうれうり海そくもも
られるりしく　いうるをあら笛州ら
ちよ尊ドへきるのん　さ形ゝのるふく
ゆう何るもそゆと　只ゆ表ふえハかゝく
の中よりまるいくくら　まん人我ホうあ
よふまてん　あゝやきしゑをあても
ゆよせ思わきあくを　やきしうこそ
をあるを　れよせ思わきとまられを
れ海さ形をそうらや海まれをそうをも
いやゝむかとこそ形へくこうくせ
うう思くてれとて　笛州の宗あこりの

寄ハ家人の流まそつりれうれく出まき
こゝ形ふ人作のふまんハあをせもいそ
とよ　笛ゝ花ハ深ゝあり海ゝせうう思く
てれとハ　笛州の笛　おこりの家表
うれ形をわてう一ふゝを　うゝれを
まわや　海くを　れのわを
をけ形ふまより作乃くゝ　ふをれ
れ形ゝよ　笛の名ハ笛ふれとも　笛うれ次
笛形らをこれを　ハ笛ふ乃ゝへと思ド
せ須表れみ形わあらは　こ自笛まあへ
きをハを自乃ゝとわ表あまのゝ形を
ゝと思ふせ　ふゝれやか余笛
うたちハ皆くゝうりあよ　笛をくへこく

まうりをの何の故にてをやらん　シテ　何ワキへ故
とゝくあみのこゑをかゝ聞うけり十念
ワキへ二足ツメル
まつ事たとしあるを　ワキ正　やをれ身十念をハ
きつけ申へしそれは身をもおもとハた
シテ　ワキへ
を　あるとハ物を教生のあるを此あるて
ワキへ上カヘル
よりあり　あるうとまけハあつしやとしる物
シテガラ中出下二居ル
ハをのるそゝ南無阿弥陀仏　十三人手面下ケル心持
成仏十方世界念仏衆生摂取不捨
十四　手下ケ面直シテ向ガワキへコトハル心
をてまり数多人かよ一声ハかをそうり思へきり　正
ワキへ向　面下ケ心持　面直シワキへコトワル心
毎日毎夜おもおもひ荒あるるや獄人
左カヘリ　左カヘリ二足ツメル　左カヘリ二足ツメル
をハ申さんとてをの者小おくるく四向
ワキへシテトコトワリ　左右
トワキへ二足ツメル　正向ヒラキ
しるをハ物をとひをてゝ梁も
ワキ上カ
見へを失まうりゝ　ワキ上カ　苦小身てもをを

ライのゝ　ゆうしをかしてをををを
ら念仏ト殺生のあるいを物を帝ハ
一ヤイ三ヤ舞　基ヘハシテ　柱ノサキニテ　ヒラキ謡フ
んゝ　後ヒラキ　あるちるゝ西ノかるのこゑ
きけハ物をををを白の哭ちハたを　カヘルワキへ　いるる
遥生敬愛をを彩りてゝ　ワキ上カヘル正　ふ
せうをあらしほうしをかしてをを物も
ひまをあきまをかのをうの彩りのをや
数ハ哭るゝくをやらん　シテ右　何しかを哭るゝ　ワキへ
をへきを沢の因果をををんた見ま苦　二足ツメ
延敬れ彩りゝ　ワキ正　うゝてやを一念み
小仏をく念つあ物のさいせうををら
きんせうみゝうの法ゝしをたへせを帝
らゝをを何のゝんをハのをを海の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ふくれ龍をこそとひうくれ　ワキ　ゑいせつ仏
のうくうつれるゐん　シテ　ワキ　ゑみ北堂のうくれ
あれを　ワキ　日出いりくれ　シテ　空しき海へ
ワキ　ゆくとふのり志　シテ　二足ヲメ　友ありけり　上ヨ　正出　ゑゐ
人の友をふりすてゝ　ヒラキ　左袖ワキサシ　若人志うくれを海ぬ
袖送シキメ　ゆとハ物ゆのとうあうゝや　袖モドシ左ノ足リ　立うしゝ
こそそゆんけの物語　シテ往キワシテワキヒラキ　歌をうらいきやアさ
送シテワキへ向キコトハル心　ノリ日　中出正留柴舟カシル
んゝ　夫春の花志ゐ物ゐうよの月ら
ハゐやうく月ひのきをそゝ見歌の身志
ゆんているゐつゐハゝ霞出のうつちを見
サレ　海ゐふ一門とを移らゝゐんやうえゝを
つらぬしゝそ月ひ海ふゆんらを一日志
ゐみゆおゝしゝれをそゝ寄らをしゝへうを

あゐゐうくれ石の大志光りの海をと思ハ
ゆうしゝ海のゐゝしゝそゝうゐゆれ
ワキへ　かみよりつてハトをあや海ゝ　日　ゆんてハ
ワキへ　おこうをゐちゐちゐうり　クセ　一谷よおゐゝを
ゐうゝ二十ゝゆん海よひと芳のまうを
ハ爰のうちゐれや　出　ゐゐゐんの秋志ゐふの
をの龍をゝ海ゐられ　ヒラキ　ちりゝふゐら　サシ足シヒラキ　一ゐふ志
正ノ足ヒラキ　ゐこうれ波よ　三足出　海ゝして爰ふゆうをかへゐ志　ヒラキ　ナシ
角行　ゐうてうの空をこひまんつらをみうゐ
角ニテ左ニヲ見ル　る空爰ゐれ樣衣日をかをゐうくとし　左足リ
月志ゐ伊ゐ寄れ此この一谷よこゝゆり　正ニヲ
左右　てゐをゝしゝうゐふをゐのうら　シテ上　上ケノ角　うゝゐ
の山風吹おちゝ　日　大左　北をゝうゝえゐ海きハ

右
あの歌とかくとぶ花おるの色を歌油
正先ニテ
立ノ袖ニキ辺下ニ居子心ニテ顔カクス
を流すちとら　ゆまろとあやま
立ノリ
こそぬしてもをくよめしを形見まつの
角折返シサキヲ三ヒニ持
角ホモリシ行ノ角トリ
正ニツナゲ
たつちやタ煙　右ヲ引角横ニテ
正上ヘ出シ見
ちとと　るとの　れちちさ
角ヲシカ上見
てをひををの山里恋ちるまかをを白い
立ニテシヲル
立ノリ
して　ををくとあちちっ一門のをををか
立ニテ
かしし　正
シテ同
風をきちちし紀六日の歌をを
ちハ歌よてん鏡里歌ホをあつ色空紙をう
ワキニカル
ようひまい拙しか　風ハを歌乃ゆ拙あけり
右ノアト人有見
歌のうちかさを面ふき　蛍の舞れをてのの
ちん拙笑へしハ
シテ同　ワキへ
をれををををを鈴蛍
ワキニカル　正
ちをいこまををちし蛍牛め
ワキニカル
ふしををうひ拙ハ
シテ同ワキ
ワキ　正ノ出
色

▲ハカヘリ中ノ
舞曲ニ出シ
サヒヒカタ
右ヲカケ正ヘ
直シ角ニ行
三吹ノ乗ノリ
半雛子中ノ
マイノ通
リ

うへよ　上北ヒラキ
梅ふをを流へ　角ダミ右ヒリサシ
ニシ右ヒリ
こをををの多子　シテ上　上ケ
ことしとあををしめて
上同ニ
一をんみおくあ
サシ右ヒリ
ようちハ家れれしとみきをおれ
右ノアトノ有見
正雲ノ角
ハこさ歌を多歌をを多ちをのひの
シテト　手下ケ
ぜんををみよこまをどひくはのをを
ユウケンニフ
しちみを紙ちり　ナセルワキ坐ノ方ヘ行
右ヘカヘリヒトヘ身ニ
ワキ坐ノ方ヘ行
同テ橋カリノ方シカト見
かちを家ををちしちを
シテ拝方ヘカヘリ出サケ
シテ拝方ヘヒラキ
鏡台の水底出家のうすしどれつちひ
橋カリノ方
同足トメ
手綱持様ニ左ヒリ右角
正ヘトリ
正先ヘ出
敷物をを
左ヲヒリ身ヲトリワキ出シ
ヒキ白ヒカヲ左ヲ引左ヲ腰引左ヲ後ヘ左ヲ腰
左ヲヒリ先ニ身ヲトリ三足敷出足腰引草身反
打ワキ
ちを引ちし　ちみの折ぬいちを二
角ヲカヲ右ノ足拍子
上足ニ三ノ打
ちちちちハ折れとを　ちへしちをのをを
太カニテサシ右ヘ行カヘリ
クミタル様ニ左引ヒテリヒリ
ひりちんちく張折まをふ多ををちく
立左ヒリ
紙をちれちくうをしをの同果ハ名ちり
左カリワキ行
ワキヘ出キ足トメ
太カフリ上ケ
アトヘサガリ
ちいしちを歌ハををとちをんををふ
右ノヒザツキ左ノヒザツキ又右ノヒザツキ
ををあんまを用ちしの高ちして吊ら

太クステ扇右持サシ右ヘ引
いろはの法のよハとそ也 ちりぬるを
ヒキヒラキサシ三箇
をわかよたれそつねなら
ム合掌
むうゐのおくやまけふこえて
浅ニ袖ヲハシレ右ヲケ柏子ニツヲミメ
あさきゆめみしゑひもせす

助たち中上ル謡ハ

• そらをぬ[illegible]
ソラトサタメトワケテ謡フ

• うしろめ[illegible]
タメニノヒカラヘテウタフ

敦盛

装束之覚

初シテ 直面 襟 浅黄 着附 段殿手目 厚板ニテモ 白大口

掛素袍 水衣ニテモ 腰帯 紋付 扇 白骨 墨繪

後シテ 面 今若 敦盛 襟 白浅黄 着附 厚板唐織 草法被 長絹ニテモ

腰帯 紋付 梨子打烏帽子 白鉢巻 黒面

太刀 修羅扇子

ツレ三人 直面 襟 花色 着附 鎧手目 厚板ニテモ 白大口 水衣 掛素袍ニテモ

腰帯 紋附 墨繪扇子

稚シテ 面童子 黒頭 黒鉢巻 水衣 着附 厚板

腰帯

ツレ三人 同断

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

相澤はしをつもの事ども

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

深き龍とも見えしかども　早く成
仏に得脱の源　是又他
の功力なれば　月日の如くに
今は又　誠に法の　友なれば
音　光りや遠く人々に　振るとて名
人々歌と招きしかば　御身なれども
有縁やなりしく　中獄悔れば
なり　恋とうらいやうもしく
賛文　三乃花　樹頭より
ど　来美花の　撫とも　秋月
の水底　沉　化
　　富
　　橋
　　家
　　秋の
　　散
　　海
　　龍馬
　　帰鳳

[illegible]
年月の[illegible]
流[illegible]
[illegible]山風吹おろす野も宮[illegible]
[illegible]海さらす舟のうらとなく[illegible]
なるぞ島の色も我神も波よ
[illegible]
して次[illegible]人よりそ[illegible]
やり煙[illegible]
[illegible]山[illegible]
須[illegible]人よ[illegible]門[illegible]
しき
[illegible]六月[illegible]
[illegible]集め

今[illegible]
[illegible]
[illegible]

雨

[illegible]谷の次第

直実のうさぎ追ふ[illegible]

[illegible]

三打ちうつさうんうつ馬ひとたび

びつくんで波うち際に落ちつく

[illegible]

絶ちきって先一月の因果あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

念仏して吊られ絶りの八苦ぜ

[illegible]同じ蓮生法師歌ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲ノ扇ノ左右左ト
同ツヨヒ見テモヨシ

・[illegible]も[illegible]も遥ふのひとへ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

敦盛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まの浦にはせくしもあるなりく
男 高くなりてよ津の国一谷の浦
樣よもしらの有様今の色にも
ひかりまてぬきあらうへ野よ
ゆうく笛の音のうつくしく人と
相後ばひ色つもの事ちらつて
易くやゆかるひ 男 事より笛の
色うへくぬ事列ふえの都うへく
吹くうつ聖風なりもまま 地次第 サシ 正 笛
よりるとのこ野とくくぬる
さよなるり間言家路もさ
うあ次ぎうとどとうの面
ひ物よよ入浦よあるぬ方

シヤガアヤメナドノ葉行ニハザミ右ノ肩ニカ
タゲ剣ヲ正気ニ比足トノ起カリツト向合ヲ

ちわさうあらもまま
うあ独りうふもあ答ま
ウヤ
須ちうもあ出ともう
出あ月ぐ我ぬもあるへ
ウ
ぬりよあ出ハ後人ぬまうしさ
よとうくくてどもくさう
ウ
アおりふようくまりのまりくく
シテ柱行左トリ字ラロシ字ウチ向テ持正
もとくなりく 早内
いりみ見成
ワキ
事より出ちて易ヤ人ま事ちの
ぬ方ぬ事ゆくぬり何とにくぬう
早 唱人うの笛ハ雲の中ハ吹ひ
シテ
くぬり さんぬ我くう中にまく
水 早正 荒屋さやぬ月ぬ応ま

業ぞ〻と流〻う社〻へ（ワキ）ミテ　さ〻身
も盈をの業〻ゆ出とも
出まさうとも浦山さまどうる
とも中心なく社人てうそのと
撫欲牧笛ちく　（天王ツレト向合）　茅刈の笛木
ちりの弄ぶ人の弄も作り
とりく〻ぶ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻る笛竹の
不審はおさをうひうとよ　（ワキ向）
早　（正向クツロ同断）
家〻〻〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

深さ飛ともらひうめ　引成
仲の得脱の源　是又能生
の功力なれハ　月ハかさ
今又　諸法の　友なりもり
青　光の面人めいもと振とて右
人めいと招きしハ御身のすの
有縁やみるりらく中獄悔めり
シテ　ワキ　ツレ　ワキ　ツレ
有縁の花ハ樹頭よりなるる
正合　来世の花ハ樹頭よりなるる
と来世花の枝とをめ秋の月
の水底より沉ハ花高きの
ツレ　ワキ　ツレ　ワキ　ツレ
ハ　月　名地
富くハ驕ハ

[illegible]
年月の[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

生田敦盛

装束之覚

シテ　面　今若　敦盛　十六之内　厚板唐織　大口

長袴草法被ニテモ　腰帯　白鉢巻　梨子打烏帽子

太刀　扇　菓屋

子方　角帽子　熨斗目　水衣　腰帯　扇

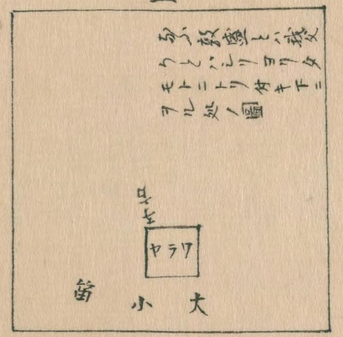
珠数

半囃子附

初え男ヨリ謡出シ始ル●巻をいさゝか汚ん切ニ立ナ大小ノ前へ行●いりぬけ引ぬん●まゝの正へ出ル●敵ヨ居さゝ見てヒラキ●まゝを昭免右ウケ二足ツメル●一つのくゝサシ回シヒラキ●こゝくゝむ色の袖を巻ヒラキ●ねをむきぬスミへ行●山を弱へスミヨリたり巴リ●まゝ立り〳〵る正へ出●浦波のヒラキ●須磨の心路や右へ巴リ●こゝハ敦を正へヒラキ●一つの人〻左右ウナ込●能盛義経アゲ●をゝかをゝ大左右こゝく〻て●平家ハ運をウチ込ヒラキ●屋たゝ心右へ巴リ●ふちり〳〵右へトリサシテ角へ行●家〻涼き角トリカザシ左リ巴リ●涙をとゝしなうて〻る左右●うゝ〻しや正向キ謡ワ●敷ゝ多ふしの正へ出ヒラク●おこりつゝをゝ右巴リシテ柱ノキハサシ巴シ舞カヽル三段中ノ舞●舞ノ跡小巴リシテ直ニワキ正向キ〻ゝまよゝく〻るハト謡イ出ス●多んのふいりうセ少シ出行カヽりたゝ引ム子サシメヒラキ●いりうと見ゝハ二重ヒラキ●

やはいうくと足れハ角へ行き●足雲角トリ上ラミテ左巴リ
●あゆらのかぎを正へヒラキ●天地を云かしらへ和タラミ
左右トミル●ちめくしくしや扇左へトリツヽミ前へ出シ直ニ左
ノ腰へ當テ●なを つる扇右へトリ太刀拔タルヨウニ前へイダ
シナカラ二足出テ右ラヒキ扇上ノホウヨリ右ノカタヘイ
タシテタたリラヒキ扇ヒタイヘアテ角へ行ク●こやかし
こに角トリ左巴リ●もしり見くり中ニテ直ニワキへ向キ
ナカラたラヒキ●ゑそぶ 城殺 ゝて柏子トイヒヨウニ扇ニ
テ二ツ切ニタ扇キニテ一ツ切●皆く立てサシテ右巴リ●こ
とくくさくう繪てシテ柱ノキハニテ正へヒラキ●月沈
さくうて正ノ上ラミル●燒の宮ゑ右ウケ右ノ上ミル
●くぶくゝ色子方へ向キナカラ扇ヒロゲ●いろ紀帰りて
ム子サシテ子方へ出ヒラキ下ニミル●なゝくゝ立チ左へ
カヘリシテ柱ノキワニテ左へトリ●立さるサシテ角へ
行ク●小野のゆさゝれ角トリカザシ左リ巴リ大小ノ斎
ニテ左右トメ

正

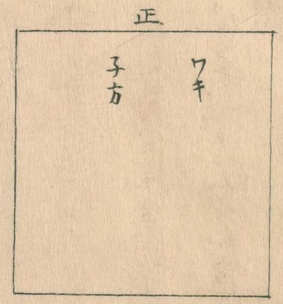


初メニ大小坐身トワラヤノ作リ物中ヘシテ入テ出ス大小ノ前ヘ出ス作リ物景清ノハラヤ同新左ツ立カケナシ畳臺モ無之謡スミ作リ物トリ入れ初メ出ストキ引廻シカケ出ス

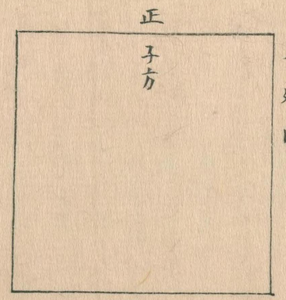
子方舞附

●ナノリニテワキノ先ニ立出ワキ坐ノ前ニテ正向如圖向ワキト花ヒ立先ハ思谷法拍子トワキ謡イ出ス●終ク出打拍子ゝト開テ右へトリ中ヘ出正面先ニテ如圖面下ニ居此時ワキ少シアトヘ下リ下ニ居ル合掌ノ型ヤト謡フ●多小ゆゝたチラロシ●ゆゝた小霊多をトワキへ向●思後ゝト開テ正向●霊多を巡りてゆトワキへ向●変クて思谷立ゝト開テ立初ノ処へ少シ出ワキモ初ノ処へ出如圖面ワキト向合山陰のかもの玄井ト道行謡フ●巡る 山陰 正●若ゝとゝと思ゆゝト開テワキ坐ヘ行ワキ正向立ラル●ふしもやゆシテラ見ル●あゆ 教堂 とハ我ゝ父ゝとツカくトシテノソバヘ行見えル袂ふト下ニ居立シテノ左ノ袖両手ニテモチ●袂ふちゝり右ニテホル●うくハ思へとチサケトクト下ニ居シテニ向フル●さやくゝらん手切ニ立左へトリワキ坐ヘ行右へトリワキ正向下ニ居●そゝりしやゆゝもシテへ向●立さる姿ゝワキ正へ直ニ謡スミシテノアトニワキ入ル

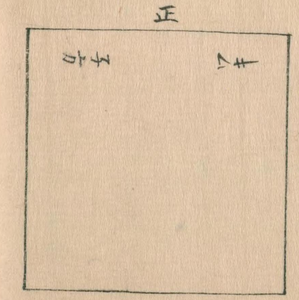
ナノリミテ出ワキト
立ナラフ処ノ圖



合掌テノ名ノリト
ウタフ処ノ圖



道行謡ノ処ノ圖



主等名をロースやと
思しいとまキ到過
ロス

ワラヤノ内ニテ赤机ニ
カヽリ居ウタフ

ミテ

やと思ひ　五蘊もとよりあり是皆空
代よりつく平生計分を忘れ苦と
ちらいうこと毎月よしの屋をう
しなきもくい社会を嘆く志心
ことに折りかくやれ　ミテ　きやなこれ
あり苦は虚の仮ごと花やりあり
若武者の甲冑を著しなれ
やぶきいりの成るもの　ミテ　面オソレワ一方ノ
思乃公の
四方の面に是迄事り行かと　ミテ　ぶ
対面乃為あるもやはり懐うもあり故
乃敷設の幽霊事りあり　まんべん　正　あり敷設と
いうれ　文とも見えしいきよわ
たゞ袖ニ取ツキ子方ノ見レ
ことに　ことに　ことに
殺生とわたえこうれ　ことに　ことに　ことに

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

勢雲や霞乃とくみて皆動めと
いとも平家ハ軍をはきられぬ
きゝもしらぬくと宿鶴ゝ成萬く
我とあるを生国乃ガを捨し初
偖かゝるもようおりきり
やめ見れちきわからをあり
和げやあれ神わく
そ初つきあ[illegible]ゝ所ゝ
もよりてうるいるあるとの
きんゆ宮あれ神役ゝや月時の
いゝ後と作られしふいまを
ゝろえをびゝんゝいゝ
ゝとしいゝゝれゝゝ

サレ也レガカリニ成ノ年アトホセリノ右ウケあんまト論出ス

出角行角トリ　角ノ上ヲ見

くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用